

第2次精華町環境基本計画（案）検討にあたって

1. 事業者アンケート結果

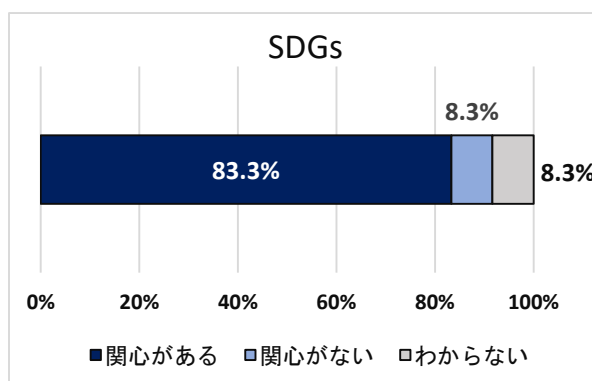
12 の事業者の方からアンケートの回答があり、その結果についてとりまとめた。

問1. 貴事業所では、次の環境に配慮した内容について、関心はありますか。それぞれ1つずつ選び、番号に○を付けてください。

- 全ての事業者において、環境保全に「関心がある」と回答しており、環境問題を意識していることが分かります。
- 一方、脱炭素・低炭素について、「関心がない」、「分からない」をあわせると2割を超えており、特に「分からない」が16.7%となっている。環境保全に比べ低いですが、7割以上が「関心がある」と回答しており、意識をされている方がアンケートを回答している様子が分かる。

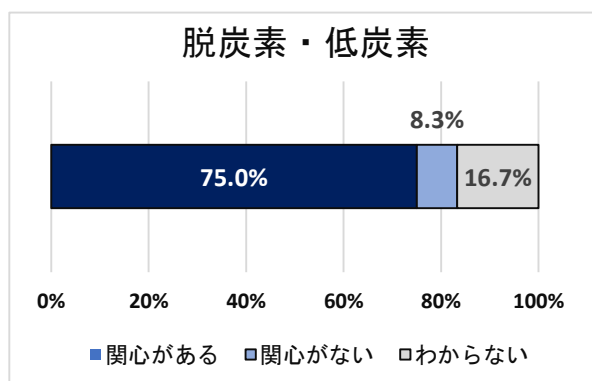
① SDGs(エスディーズ)

	回答数	割合
関心がある	10	83.3%
関心がない	1	8.3%
わからない	1	8.3%
合計	12	100.0%



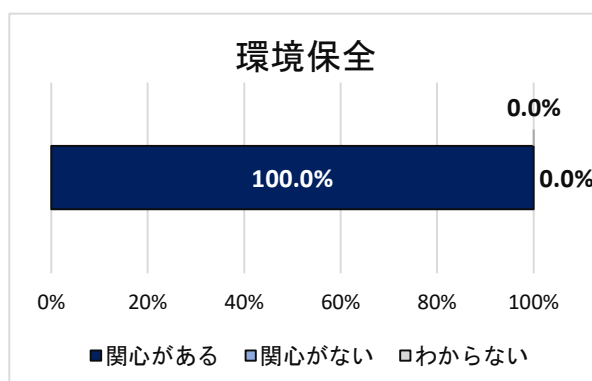
② 脱炭素・低炭素

	回答数	割合
関心がある	9	75.0%
関心がない	1	8.3%
わからない	2	16.7%
合計	12	100.0%



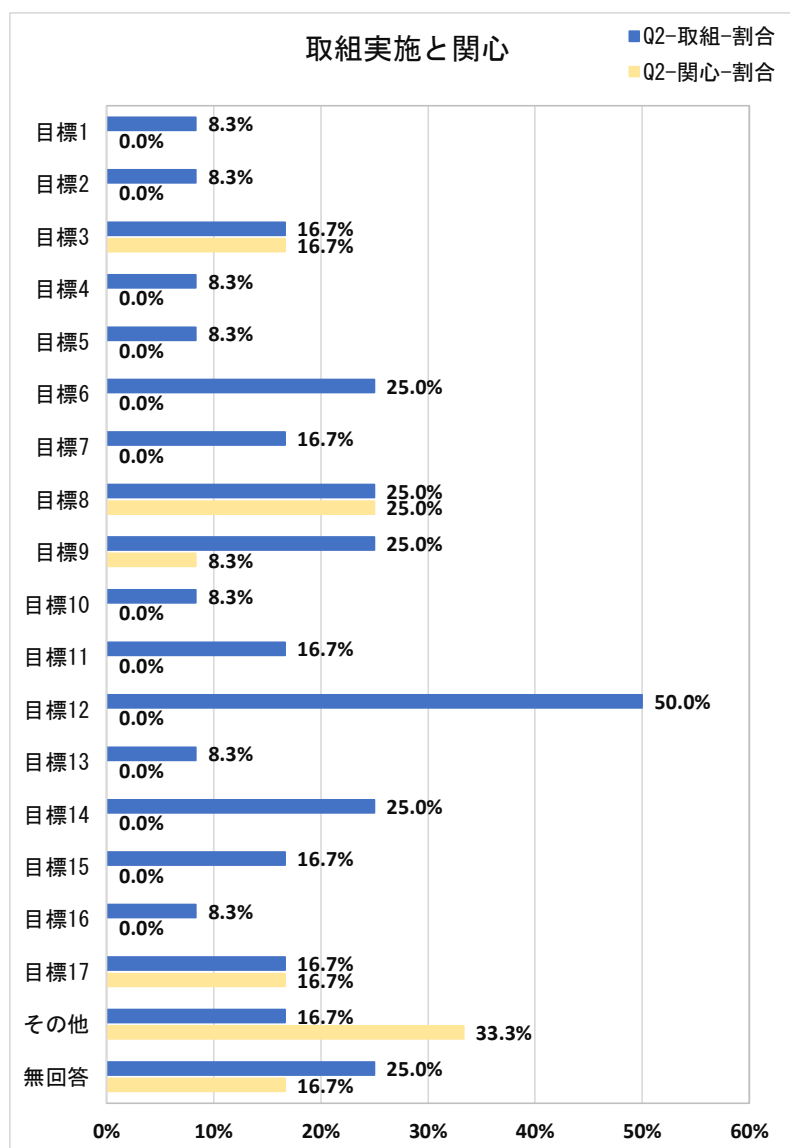
③ 環境保全

	回答数	割合
関心がある	12	100.0%
関心がない	0	0.0%
わからない	0	0.0%
合計	12	100.0%



問2. 貴企業では、SDGs 17 のゴールに関連する取り組みをされていますか。また、取り組みされていないけども関心のあるゴールはございますか。あてはまる目標、それぞれすべてご記入ください。

- 既に SDGs のゴールに関連する取組を実施していることでは、目標 12「つくる責任 使う責任」が5割に達しており、事業活動を行う中で意識している様子分かります。
- 関心のあるゴールについては、目標 8「働きがいも 経済成長も」が全体の 1/4 をしめ、関心を寄せている目標だと分かります。また、「すべての目標について関心を持つこと」や「今後検討したい」との回答もあった。



<その他の記述回答>

関心のあるゴール

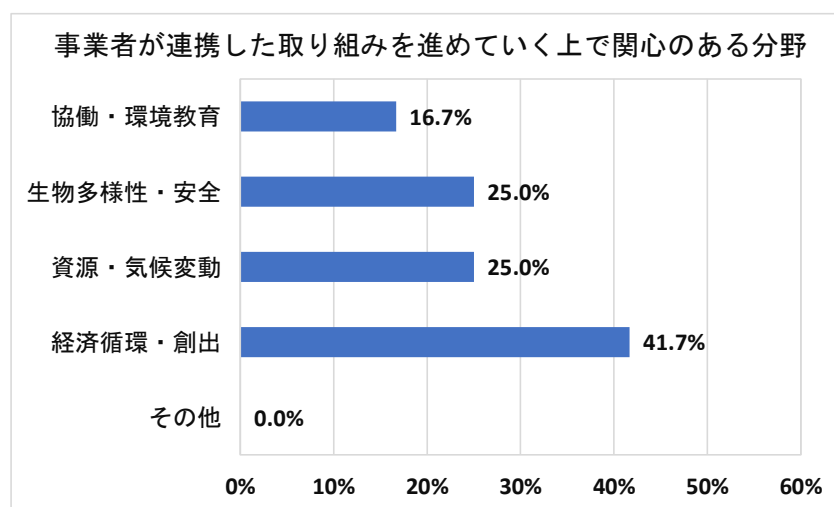
- 今後取組内容について検討予定
- 目標はそれぞれに繋がりがあることから、すべてに関心を持つ中から、実施可能な取り組みも生まれてくると考える
- 少し

＜実施している内容や関心のある内容について、具体的な記述内容＞

- 電動車のインバータ、自動運転向け製品作りをしているので、人の命を大切に、目標 12 の責任を認識している。
- 工場外美化清掃、緑化の設置、廃プラスチックのリサイクル
- SDGs の取り組みについて対外的に宣言はしておりませんが、社員にはバッチを配布し意識付けをしています。弊社は感染症対策事業を柱とした事業の組み立てとなっているため、環境消毒に関する取り組みや、非感染性疾患の医薬品研究開発のサポートを昆虫で研究中です。
- 目標 3:有害物質を使用、排出しない製造技術の検討、目標 6:水質、大気、土壌など環境規制の法令遵守、目標 9:省エネ、省資源、安全性を革新的に高める製造プロセスの開発、目標 12:RSP0 認証など適切に管理された天然資源の使用と廃棄物の低減
- 目標 8、9 を想定し、事業継続力強化計画の申請に向けて準備を進めております。
- 別紙 当社の SDGs 宣言の内容をご確認ください。
- 精華町内の苺生産者とパートナーを組み苺を仕入れているが、今年から仕入れに際して、形にこだわらず、必要数を仕入れることとした。生産者は、直販に必要とする苺を活用、グリーンハ〜モニーは、それ以外の苺を仕入れ、活用する取り組みを実施している。また、来年には、他の生産者に対応し、加工で生じる「残渣」を活用した取り組みも実施を予定している。
- 環境負荷軽減を目的として、二酸化炭素排出量を削減できるような自社製品開発。太陽光パネルの屋上設置。産休・育休取得推進

問3. 精華町第2次環境基本計画では、4つの環境目標像を掲げ、取り組みを進めていく予定です。その中で、より事業者の方とも連携しながら取り組みを進めていきたいと考えています。関心のある分野はありますか。（詳細は別紙をご参照ください。）

- 事業者の連携した取り組みで関心のある分野では、「経済循環・創出」が41.7%と最も多く、次いで「生物多様性・安全」と「資源・気候変動」が25.0%の順になっています。



問4. 近年、食品ロス、マイクロプラスチック、気候変動の影響（暑熱、豪雨等）への適応などについて、新たな環境課題として取り組みがはじまっています。貴事業者で課題と感じていること、または実施していることはありますか。

＜記述内容一覧＞

＜課題に感じていること＞

- 内外袋の処理（（プラスチック）ビニール袋）
- 気候変動の影響による従業員への被害予防
- 豪雨等による、社員の通勤等の安全について
- 食品ロス
- マイクロプラスチック
- 課題というわけではございませんが、企業としての法令遵守(コンプライアンス)できるよう活動しています。
- 部屋を密集してのエアコン温度一定管理していたのですが、コロナ禍により部屋を開放せざるを得ず、エアコンなしでは熱中症の可能性もあり、どうバランスをとるのが当面の課題です。
- 食品ロス→昼食弁当の廃棄をなくす マイクロプラスチック
- レジ袋が有料化。しかし、無人販売やマルシェでの花の苗などの販売では、土などでの汚れ防止は必要で、すべてマイバックを利用して…とはならず、レジ袋も有料にはしにくい。レジ袋の使用は少しは減ったと思われるが、「レジ袋をそこかしこに捨てる」、「新たにエコバッグ万引きをする」を含めた人間モラルへの対処が根本的に必要であり、現状では、レジ袋の代金を支払う人が業者から、顧客に変わっているに過ぎない。
- 弊社事業で使用する石油由来原料の削減
- マイクロプラスチック

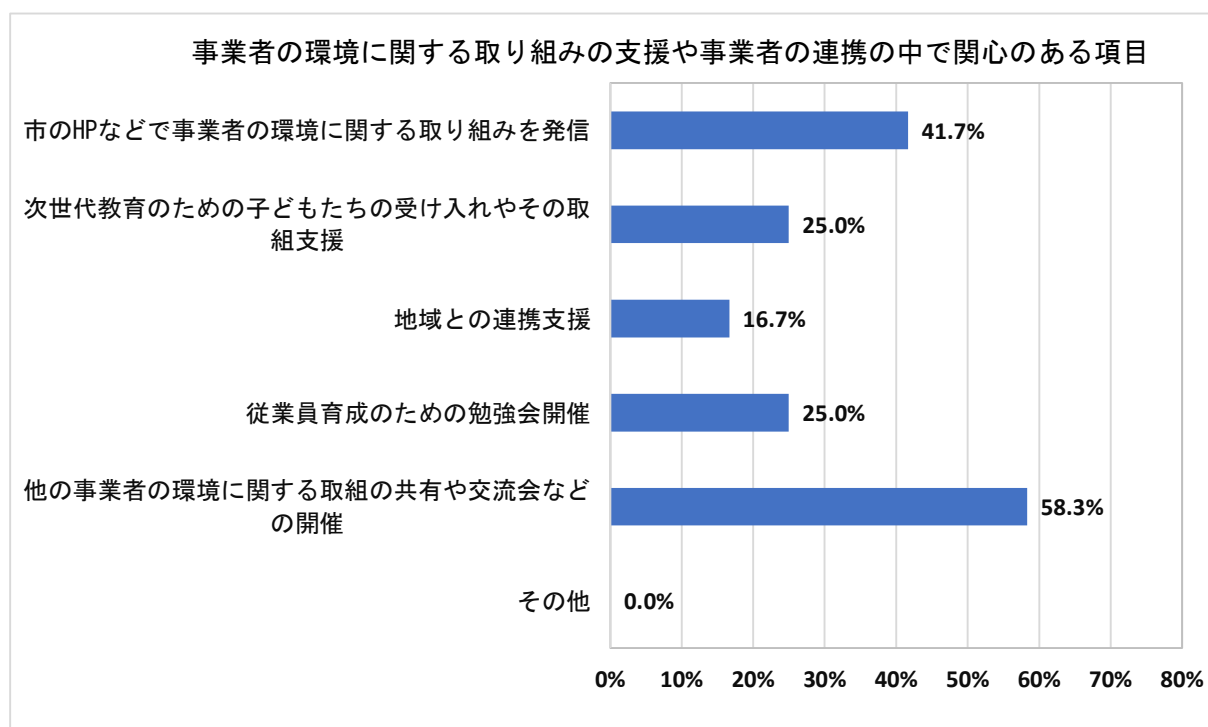
＜実施していること＞

- プラスチックを扱っているので、歩留向上及び・・・を使用して排出量を削減することを設計から考慮している。
- 現在は分別のみ実施。現状対策案なし。
- 台風・警戒警報・大雪など、通勤にリスクが伴う状況での出社見合わせなどのリスク回避対応。
- 一斉配信システムの導入
- バイオプラスチック関連の研究
- ごみの分別収集、エアコン温度管理、社内照明のLED化(実施済)
- ごく近所の常連さんには、レジ袋を使わず、フラワーポットに入れ、台車で配達している。(配達に対し、安易に車を使うと、CO2を出してしまうのでごく近所に限られる)
- 毎朝の数量確認 紙ストローに変更済
- 石油由来原料の使用量を削減した自社製品の開発
- ごみの分別

問5. 事業者の環境に関する取り組みの支援や事業者の方との連携を検討しています。関心のあ

- 事業者が最も関心のある項目は、「他の事業者の環境に関する取組の共有や交流会などの開催」が58.3%と最も多く、「町のHPなどで事業者の環境に関する取り組みを発信」が41.7%の順となっています。これらの項目はともに4割を超えており、環境に関する取組に対して前向きに考えている事業者の方が多いことが分かります。

る項目はありますか。あてはまるものすべて○をしてください。



2. プラットホームワークシート結果（2 団体から返答）

○貴団体や他団体や町と連携して、今後 10 年間どんなことに取り組んでいきたいですか。

＜貴団体で取り組みたいこと＞

- （１）食品ロスを改善するために、食品の賞味・消費期限を決めるための、さらにその寿命を延ばすための科学的な方法を研究開発し、その実用化を図ること、（２）環境関連の意見交換会を開くこと（講演会ではありません）、が現実的なものと考えています。
- 女性講座に環境問題を取り組む
- 心もち運動を継続する（タオル、石けん）
- ゴーヤーカーテンの取り組み

＜他団体や町と連携して取り組みたいこと＞

- 7, 8 年前、前町長の時代に提案し、町長室で話し合ったのですが、発電装置を備えた小形の廃棄物処理炉を庁舎敷地内に設置し、それで町民向けの無料の精華温泉を設けることの研究。
- さらに里山で発生する竹材を有効利用するため、製紙会社または生分解性プラスチックメーカーと共同で、竹パルプによる製紙を行い、庁舎内で使用する全ての文書をこの竹パルプ紙に切り替えるための基礎研究をすること。
- EM ぼかしの団体と参加・協力

○精華環境プラットホームや各団体、また環境に関する取り組みにおいて若い世代を巻き込んでいくことも課題となっています。若い世代や新たな人を巻き込んでいくために、取り組んでみたいことはありますか。

- 若い人なら「子ども無料食堂」がよいとおもいます。

3. (提案) 10年後の目指す方向性について(委員からのメッセージについて)

- 今後の10年間が、環境面でも重要な10年となることから、委員の皆さんから町民の方に向け、分かりやすく「この計画がどういう目的・意味を持って、どういうことにつながり、どんなことを目指すことになるのか」について、メッセージをいただき、掲載を行う。

イメージ：兵庫県林業会館建て替え時PR ンフレット(下記文量：300文字程度)

寄せる思い

新たな挑戦の詰まったこの建築は、たくさんの関係者の思いや苦勞の結晶と言えます。建築主、実施管理にあたった兵庫県林業会館新築工事建築実証協議会の構成員の皆さん、設計施工担当者の方々より兵庫県林業会館に寄せる思いについてお話しいただきました。

木材利用拡大という運動を進めてきて、ようやく成果が出始めてきたと感じています。森林の循環を活性化するには、出口である木材業界ががんばっていく必要があると思います。今回、汎用性のある都市木造モデルを建設したことを契機に、さらなる「ウッドファースト社会づくり」を進めていきます。	本年は5月に新元号が幕を開けます。それに呼応するかのよう到我々兵庫の林業関係団体の新たな林業会館が完成し、森林環境譲与税も導入され、防災のための緊急対策も始まりました。当協会職員一同気持ちを新たに、兵庫の森林・林業を守り支え、育てるためにしっかり取り組む所存です。	兵庫県林業会館の竣工にあたりまして、われわれ苗木生産者は、「大木も小さな苗木から」をキャッチフレーズにスギやヒノキなどの苗木づくりに励んでいます。この丹精を込めて育てた苗木が大木に育ち、さらに木材としてCLTなどに利用され、再び苗木を必要とする時期が来しました。まさに今がその時です。
兵庫県木材業協同組合連合会 会長 谷口 幸三	一般社団法人兵庫県治山林道協会 会長 谷 公一(衆議院議員)	兵庫県林業種苗協同組合 理事長 日下部 公孝

木材を建築物の構造材料としてもちい、かつ、みせて使おう。「木の文化」といわれる日本にとって簡単のようだが、実は3階建てを超えると、とたんに難しい。これは地震後火災を経験し、それを克服しようと定められた日本の法令、が故である。一方、世界に目を向けると、現在のところ、8階建てを、木材をみせて実現している。日本の高い法令のハードルを、柱やはりなどの構造部材を鋼材とすることにより突破・解決したのが、兵庫県林業会館。本建物の考え方をえば、10階を超えるような建物も実現可能である。利用できる木材を多く有する日本での新たな木材の建築利用への展開、さらに、耐火・耐震安全性を確保したうえで木材を用いたビルの高層化、それを実現する第一歩といえよう。

京都大学生存圏研究所
教授 五十田 博

兵庫県林業会館はCLTの新たな使い方を実現した斬新な建築です。本プロジェクトの検討会に参加し、耐火建築においてCLTがどのように利用できるかを検討しました。一般的には構造部材はなるべく少ない量で空間を作ることを目指しますが、CLTの建築ではCLTをボリュームとして使用することが大きな特徴です。そこでCLTを見せることが重要だと考えましたが、耐火建築という制約の中では、CLTを主体構造体として使用すると耐火被覆が必要となり見せることはできません。一方でCLTを地震力の抵抗要素のみとして利用するとあらわしとすることができます。どちらがこの建築としてふさわしいかは大変悩ましい問題でしたが、結果的には鉄骨造を主体としてCLT壁をあらわしとする建築が実現されました。

金箱構造設計事務所
金箱 温春

CLTによる兵庫県林業会館建替完成、誠におめでとうございます。CLTがもたらす森林資源の有効活用と環境保全に対する理解はありましたが、建物の熱負荷抑制や、室内の居住環境性能にまでの効果を期待することにはこれまで意識がなかったため、今回、建築実証協議会に参加させて頂いたことに「驚き」と、また勉強の機会を頂いた「感謝」を感じております。これらに関して、計画・設計段階での評価は進めておりますが、実際に利用頂きながら評価・検証することが大事になります。執務される方々には測定でご迷惑をおかけすることもあるかと思いますが、何卒ご容赦いただきますと共に、今後のCLT建築のよき先例となることをお祈りします。

立命館大学 理工学部 建築都市デザイン学科
教授 近本 智行

耐火建築物(鉄骨造)への合理的なCLTパネルの活用法を見せてくれる建物です。耐火建築物は、火災時に消防活動によらず建物が倒壊しないことが求められます。その倒壊防止を、耐火被覆した鉄骨の柱・はりCLTパネル床で担保して、倒壊に直接関係しない、耐震壁に、内装制限告示(H12建設省告示第1439号)を適用して、CLTをあらわしで使っています。また、CLT耐震壁と耐火被覆した柱・はりの接合部の耐火性能を実験で検証し、CLTの長時間燃焼により鉄骨躯体が熱的ダメージを受けないことが確かめられています。

これらの工夫や実験的実証により、火災安全性に配慮しながら、木と鉄の良さを活かした、心地よく豊かな室内空間が実現されています。

桜設計集団一級建築士事務所
代表 安井 昇

既にその影響が顕在化しつつある気候変動に対し今世紀後半にCO₂等を実質排出ゼロとするパリ協定、SDGsなど、持続可能性(サステナビリティ)について大きな転換点を迎えています。物質的には脱炭素が、地域社会的には人・もの・カネの地域内循環をいかに適正なものにしていくのがキーとなります。

中高層の建築を木造・木質化することは、CO₂排出量の多い鉄・コンクリートからカーボンニュートラルなマテリアルへと転換すること、さらに、木材需要を増やすことにより地域内循環を促進することにも寄与します。

兵庫県林業会館での取組が契機となり、我が国の防火地域での中高層建築の木造・木質化が進み、脱炭素に向けたマテリアル転換、地域内循環を通じて持続可能な社会づくりへとつながることを期待しております。

兵庫県林業会館新築工事建築実証協議会
事務局長 畑中 直樹(株式会社 地域計画建築研究所(アルバック) 役員)